

野はら

No. 6



リレー題字：小澤綾野さん 絵：木下夏子さん

特集「創る」
野はらファームよ再び
春の陽四季折々
菜の花から～造形活動
その他



理事長 坂本 敬新

北上する桜を心待ちにしている八ヶ岳南麓、私たち農業従事者もあの土地にはこれを蒔き、ここにはあれを……と暖をとりながら本格的な農の前に準備をしております。皆様の御家庭におかれましても希望や期待が語られ、今年はこの年にしたい……と思いがながら新しい年がスタートした事と存じます。八ヶ岳名水会も同様です。

本年は社会福祉法人八ヶ岳名水会ならびに入所支援施設星の里が20年を迎える記念の年となります。創設の精神や理念の元となった「何人も平等である。」に立ち至り、本人や家族の声、願いや希望と正面から向き合い、「当たり前」の地域生活の実現に向けて邁進してきましたが、動きは早く、まだまだ至らない事だらけ。やらねばならぬことが山積の日々です。



星の里の養鶏場

障害者自立支援法でも就労移行や就労継続A・Bというサービス分野が設けられ、ずいぶん働く事、就労への方向を色濃くした法律であると思われました。平成25年4月より、また法律が変わって「障害者総合支援法」のスタートとなります。

本来、その人の力に応じた労働はあたりまえの事であり、社会貢献としても大事であり、本人の意識や意欲も格段の変化が出てこようと思っております。ただ、危惧するのは、それぞれに



春の陽農場の梅の開花

応じた支援の手が継続してあるか。私は否!!と思っております。

国には財源がないというところから、「比較的自立度が高い、本人さんたちには今までのように支援の手はさしのべられない。自力で、あるいは誰かの手を少し借りながら暮らしてほしい。もはや公の力を借りるのはむずかしくなっているよ。」と、そんな時代が目の前に来ているような気がしてなりません。



楽一のほうとう定食

時代は、高齢化そして後継者不足。そこそこで地域活性化が叫ばれ、担い手がほしいという地域ニーズが噴出してあります。それぞれの課題を独自に解決するのは時間もコストもかかる。そこで、「誰かの手を借りながらも働きたい」という福祉ニーズと「働く人がいない、担い手がいない」という地域ニーズが一致できるところで手を結べば、地域活性化の一助ともなり、先が明るくなります。

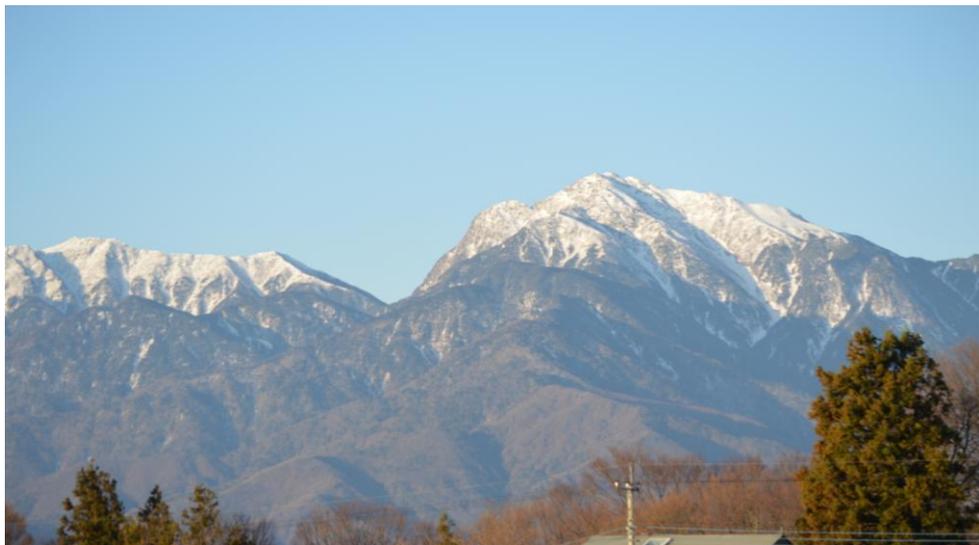
年毎に農地は空いてくる。その農地を借りて耕やす人あり。種を蒔く人あり。刈りとり収穫、脱穀する人あり。農地の周囲の草刈りをする人あり。生産物を加工、販売する人あり。生産者にも、販売者にも消費者にもなる。労働者であり、経営者でもある。地域で暮らす人すべてにつながります。人、物、環境が循環し、柔軟な対応と選択が出来る。大工仕事もそば屋さんもほうとう屋さんもパンやクッキー、惣菜屋さん、おそうじ屋さんも草刈りチームも……と。

少し誰かの手を借りながら、お互いに助け合えば可能となる。みんな傘の下に入れます。

これらの願いを叶える具体策が「農業法人」もしくは「NPO法人」です。ここに来てようやく、農地利用者の動き、応援スタッフ、コーディネートスタッフ、財政面での枠組みなどが現実的なものとなってきました。

それぞれの法人のメリット・デメリットを検討しながら、実現させていきたいと思えます。

さあ、野はらファームの始動の時です。



春を迎えた甲斐駒ヶ岳

春の陽四季折々

春の陽職員 今関 博雄

春 「土手焼き」

春の訪れ。土手焼きに始まる農作業は、手順を踏んで切れ目なく進んでいきます。有機・無農薬の農法を基本として発酵完熟堆肥による土作りに力を入れてきました。はるのひ農場の主な作物はお米です。うるち米のひとめぼれ、もち米の満月種、黒米のアサムラサキ、この3種類を合わせて8・5反を手作業で耕します。毎年同じ時期に同じようにあるお米の種まき作業に、養鶏・リサイクルグループからOさんが一人でやってきて応援に加わります。育苗箱の移動と次の工程のためにローラーの所定の位置に育苗箱を載せて、決まった方向に置いていく流れ作業に加わります。自分に出来ることがあること、役割があること、そこにリズムと躍動感があれば人は自然に集まって

きて力を出してくれます。その時、必要以上の機械化はそのことを忘れさせてしまいます。

夏 「熱中活動」

全ての農作業が集まり、交差重なり合う猛暑の中の日中活動。田の草取り、大豆畑の草取り、小麦・梅・にんにく・玉ねぎの収穫などなど。田んぼの草取りは田車をひたすら転がし、田車の届かないところは手取りで仕上げます。梅は朝採りして自然食品店へ持っていきます。ジュースやジャムにも加工して販売を始めました。

秋 「私たちは今、種！」

実りの秋。稲刈り機1台での刈取り作業利用者さんたちが入れ替わり参加する人気の仕事でもあります。春の陽総出の秋の収穫祭には50名くらいの方々が参加してくれるようになりました。人の力と気持ちの結集は、豊かな実りを生みます。稲穂が乾いてきたらハーベスターを借りてきて脱穀します。



長い冬の間の薪作り

冬 「柚子味噌入り玄米餅」

十二月に入るとすぐ、土が凍結しないうちに、ヤーコンの収穫・保存・加工をします。収穫はこれで終わりです。農産加工と農業資材の燻炭や薪の生産が長い冬の仕事となるのです。

日々創りだす つかはら工房

物づくりをとおして広がる輪

私の車を見ながら笑顔で「オーライ・オーライ」と、利用者S君の挨拶で迎えられ、緊張感がとけてホッとした気持ちになったのを今でも覚えています。おかげで、星の里での仕事が気持ちよくスタート出来ました。初めて経験する職場で初めは戸惑いましたが、多くの皆さん方と親しくお話をさせていただき、入社して二年五ヶ月が過ぎました。

総務課に所属し、経験を生かして利用者さんのY君、H君達と各施設、グループホームの修繕、環境整備の仕事がスタート。

利用者さん達も初顔合わせで戸惑いがあるように見えたが、日々仕事を通して、やりがいと達成感で緊張もほぐれて、笑顔の挨拶で「今日も頑張るよ」の一言。

仕事に対しても分からない事は聞いてくるようになり、慣れない作業も前向きに取り組み、頑張る姿を見て嬉しくなりました。これからもいろんな仕事、経験を身につけて一日も早く自立出来るようにと思っております。

利用者さん達と力を合わせて完成した、手打ちほうとう「楽一」があります。ぜひ見に来てください。これからも利用者さん達が自立するまで頑張れたらいいなと願っています。

今年の冬は雪が多く、雪かきが大変で農場の仕事を中心に活躍しています。

今年の冬は雪が多く、雪かきが大変で



したが、名取さんが大活躍してくれました。今後も徐々に法人全体の中で連携して、仕事の幅が広がられればと思っております。みなさんよろしく願います。

総務課職員 塚原 和吉

この欄は、毎回、八ヶ岳名水会で働く職員が、交替で書き綴るコーナーです。女取の泉は、長坂小荒間の森の中にある美しい泉です。

造形活動

榎村玲子



「おいしくなくれ〜。おいしくなくれ〜」と声が。私はすごく嬉しくな
って振り向くと女性メンバーが楽しそ
うに絵筆を走らせていました。「そうだ
よ！絵を描くってそういうことだよ
〜！」造形活動の本当のねらいは、精
神活動！心が動いてこそ深い造形活動
になるのです。

思わず車椅子から立ち上がって精一
杯遠くの紙面まで絵筆を走らせる。「大
きな紙になんか負けないぞ〜どうだい
やったぜ！」という声が聞こえるよう
です。



トトロ組（私が勝手につけたニック
ネーム）Nさんは描く人、職員の日さ
んは絵の具を作る人・・・静かに穏や
かに二人の世界！いいな〜。

「私こんな色ほしいな。この色はどう
かな？あら素敵！ここに、こんな風
に描いてみようかしら・・・？」こんな
会話が聞こえるような雰囲気です。

まだまだ・・・書きたいエピソード
満載！利用者さん一人ひとり。乞うご
期待（笑）次は誰かな〜？

利用者さんと職員が混然一体ごちゃ
混ぜで楽しんでいる風景に満足！（活
動も準備も後片付けも大変なのに）職
員のみなさん、本当にありがとうございます。

菜の花での造形活動も長くなりまし
たが、どんどん良い雰囲気になって利
用者さんが伸びやかに楽しんで活動で
きるようになっていきます。菜の花の日
ごろの表れだと感じています。

これからも皆の心の声に耳を傾け、
楽しいことが出来るようにあれこれ考
えます。
菜の花から帰るときは元気をもらって
います。

ありがとう。

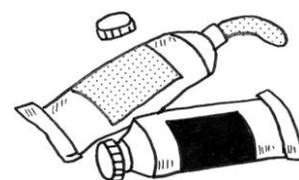


榎村玲子さん

支援学校で美術の教師をされていました。
先生には月に一回、造形活動の講師をして頂
いています。

菜の花 利用者活動作品展

みえないことづけ VOL.3



今年も展示会「みえないことづけ」を開催する運びとなりました。昨年と同様、蕪崎駅前蕪崎市民交流センター「ニコリ」のギャラリースペースにて開催いたします。昨年の展示会では心温まる沢山のお声を頂戴し、その喜びを胸に更なるパワーアップを目指して準備してきました。作ることを楽しみ、形になったものを見て達成感を味わい・・・一年を通して沢山の作品が誕生しました。どれ一つとつても、世界にたったひとつ、「その人らしさ」がにじみ出ています。ぜひ、展示会場に足を運んでいただき、「その人らしさ」や「菜の花らしさ」を味わっていただけたらと思います。菜の花一同でお待ちしております。

期間…平成二十五年四月六日（土曜日）～四月十一日（木曜日）

時間…午前十時～午後三時

場所…蕪崎市民交流センター NICORRI（ニコリ）

一階市民ギャラリー（蕪崎駅前）

お問い合わせ…八ヶ岳名水会 菜の花 0551・32・0035

※受付係は午前十時から午後三時まで常駐していますが、ニコリ開館時間内であればいつでも作品をご覧いただけます。

なお、入場は無料となっております。



「ワンピース」 佐藤 未来

朝には太陽が上がるように
春には桜が咲くように
あなたは私の生活の大きな大きなワンピース

夜には星があるように
冬には雪が降るように
私もあなたの生活の小さなワンピースになりたい

当たり前のように側にいたい
パズルはワンピースなくなると完成しない
当たり前のように側にいたい
そういうあなたのワンピースになりたい

あなたの心に目立たなくてもいい
他のワンピースと見分けがつかなくてもいい

※原文のままです。

未来さんは菜の花の利用者です。歌詞や詩を創る素敵な女性です。



ありがとうございました！

○題字を書いてくださった方

菜の花利用者 小澤 綾野さん

○表紙絵を描いてくださった方

菜の花利用者 木下 夏子さん

素敵な字と絵をありがとうございました。

援農ボランティア募集

春の陽農場では、草取り・草刈・田植え・収穫などの援農ボランティアを毎年募集しています。

連絡先 0551(32)7373

春の陽職員 関根まで

訃報

グループホーム利用者

西 清子さん 享年四十六歳

星の里利用者

鴨狩悦子さん 享年五十八歳

グループホーム利用者

植松一雄さん 享年七十四歳

謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

毎年のことだが、その年に燕を観察した最初の日を記録するようにしている。今年も、三月二十八日。燕はまるで南からの使者のように、春の訪れを知らせてくれる。

ちょうどその頃、葦崎のわに塚の江戸彼岸桜が満開になる。新府の桃の花もほころび始める。そうすれば、やっと、この八ヶ岳南麓でも桜の便りが聞かれるようになるのだ。この地域は標高差があるのかかなり長く春の花を楽しめる。梅も辛夷も桜も桃も全部一緒に楽しむことができるのが嬉しい。

燕の便りは、山の雪形と同じように、農の便りでもある。平地では、馬鈴薯の植え付けは三月末迄であるが、八ヶ岳南麓では四月末頃迄でも大丈夫。地温も気温も低いし、遅霜や遅い降雪も心配だからだ。でも、燕が来れば、農作業は本格的に始まる。

今年もみんな楽しく百姓やるぞう！

⊙



社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@mx5.nns.ne.jp



広報委員会スタッフ

廣瀬政光 山口和江 小池 翔 穂坂雄太 (以上菜の花) 坂本ます子 茂木洋輔 相吉謙輔

村居奈津美 望月杏沙美 徳川吉彦 (以上星の里) 坂本むつみ 鈴木直子 (以上事務局)

立川 瞳 河西悠介 (以上春の陽) 清水めぐみ 中村和稔 (以上陽だまり)